

わくわく

6月号

本だな

1 2 3 年



えほん



E 『はやくちことばのさんぽみち』

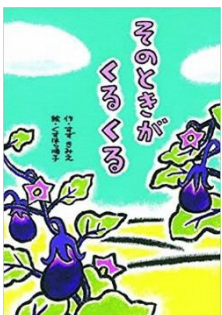
平田昌広／文 広野多珂子／絵 アリス館  
さんぽ道には、草花や生き物がいっぱいです。どこからか、ホトトギスのなき声が聞こえてきました。ふみちゃんはお父さんから、おもしろい早口言葉を教えてもらいます。「とっきよきよかきよく ほととぎす」声に出して、名前をおぼえよう。

K913 『うりぼうウリタ もりのがっこう』

おくやまゆか／作 偕成社

あわてんぼうのウリタのカスタネットを友だちがひろってくれました。あれ？かばんには、ちゃんとカスタネットがあります。それに、ひろったほうには〈ウソタ〉と書かれています。たたいてみると、ポコポンポンとへんな音がしました。

ものがたり



K913 『そのときがくるくる』

すずきみえ／作 くすはら順子／絵 文研出版

たくまは、おじいちゃんとおばあちゃんの家にとまりに行きました。夕ごはんのみそしるに、たくまのきれいなナスが入っています。「むりをしなくても、おいしく食べられるときがくる」っておじいちゃんは言うけど、本当かな？

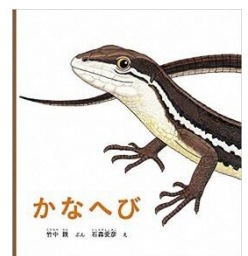
ものがたり

E 『かなへび』

竹中踐／ぶん 石森愛彦／え 福音館書店

日本中の野原にいるかなへびは、とかげのなかまです。ふだんは、かれ木の上でひなたぼっこをしたり、動き回ってえものをさがしたり。ねこやからすにおそわれたら、自分のしっぽを切って、相手が気をとられている間ににげます。

ちしきのほん



わ く わ く

6月号

本 だ な

4 5 6 年



物語

K913 『コトノハ町はきょうもヘンテコ』

屋田弥子／作 早川世詩男／絵 光村図書出版

「道草をくう」とは、より道をしたたり、とちゅうでほかのことに時間を使うという意味の慣用句です。

レンちゃんの住むコトノハ町では、ことばどおりのことが起こります。天気の良い日、レンちゃん、土手で道草をくっている人に出会いました。レンちゃんも町の人にまざり、草をちぎって食べてみます。

物語

K913 『きみが、この本、読んだなら ざわめく教室編』

戸森しるこ／作 おおぎやなぎちか／作 赤羽じゅんこ／作  
池田ゆみる／作 さ・え・ら書房

ぼくは、同じクラスの貝原さんのことが気になっています。貝原さんは、教室ではしゃべらず、いつもひとりです。さらに、高さ二十センチほどの人形をひざにのせています。

ある朝、ぼくは、貝原さんの机に『りかさん』という本を置きました。市松人形のりかさんと小学生の物語です。「貝原さんがこの本を読んだら、どんな感想を持つのかな。」



ちしきの本



K383 『歴史ごはん 信長、秀吉、家康たちが食べた料理 つくって、味わい、歴史を知ろう』

永山久夫／監修 くもん出版

表紙の3種類のごはんは、湯づけ、割りがゆ、麦飯です。戦国武将の信長、秀吉、家康も食べました。3人の性格のちがいは、食の好みのちがいにあらわれています。

また、この本では縄文時代から大正時代の料理を再現する方法がしょうかいされています。作った料理を味わって、昔の人のくらしを想像してみましょう。

図書館のまどぐちには、くみたとると本になる「わくわく本だな」もあるよ。

ホームページもみてね！〈編集・発行〉富山市立図書館 富山市西町5番1号 電話 076-461-3200